

暗き夜に^{かじか}河鹿は切に声高く

水涌^わく里は光る源氏か

令和四年七月六日

大中臣正比呂



昼間、風呂場のサッシに居た螢を捕まえた。この源氏螢は陽の長い一日が暗闇と化す頃、黄緑色の恋の光りを放つ。巡り逢うひとへの文をしたため、花の君様の手には如何なる返歌が用意されているのだろうか。